

2023年度 大学評価にかかる事例報告

東北福祉大学における内部質保証について

2024年6月19日
大学基準協会 事例報告会
東北福祉大学
総務部次長兼企画課長
千葉英俊



目次

東北福祉大学の概要

1. 本学の内部質保証システム
 - 1) 内部質保証の概要・組織整備
 - 2) 内部質保証小委員会
 - 3) 自己点検・評価活動
 - 4) 自己点検・評価と事業計画等との関連
2. 本学の特色ある取り組み
3. 大学評価への準備と評価を終えて

東北福祉大学の概要

法人名	学校法人梅檀学園
所在地	宮城県仙台市青葉区国見1丁目8番1号（国見キャンパス）
建学の精神	「行学一如 <small>（ぎょうがくいちによ）</small> 」（学業も実践も本は一つ）
法人の沿革	1875（明治8年） 宮城県曹洞宗専門学支校創立 1948（昭和23年） 梅檀学園高等学校設置（1970年廃止） 1958（昭和33年） 東北福祉短期大学開学（1962年廃止） 1962（昭和37年） 東北福祉大学開学（社会福祉学部社会福祉学科設置） 1996（平成8年） 関連施設開所（社会福祉法人 東北福社会「せんだんの杜」） 2007（平成19年） ステーションキャンパス館竣工 2008（平成20年） せんだんホスピタル開院 2015（平成27年） 仙台駅東口キャンパス開設
教育研究組織	4学部 2研究科 通信教育部 通信制大学院 東北福祉看護学校（通信制） 総収容定員8,829名
関連法人	社会福祉法人 東北福社会（せんだんの杜、せんだんの里、せんだんの館など） 医療法人社団 東北福社会（せんだんの丘、予防福祉クリニック） 学校法人 福聚幼稚園

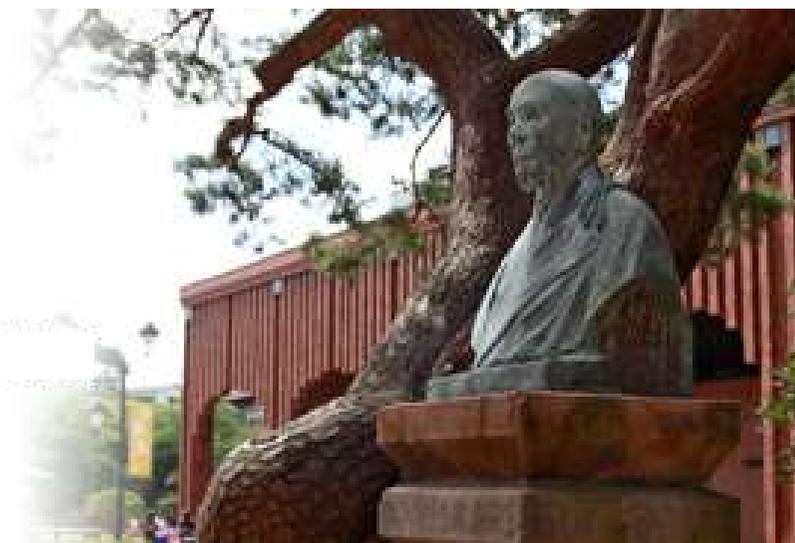
建学の精神と教育の理念

行学一如

[学業も実践も本はひとつ]

自利・利他円満

[支えあい、ともに幸せに]



全学部・学科構成

総合福祉学部	社会福祉学科		400名	入学定員1,300名 収容定員5,200名
	福祉心理学科		120名	
	福祉行政学科		100名	
総合マネジメント学部	産業福祉マネジメント学科		100名	
	情報福祉マネジメント学科		100名	
教育学部	教育学科	初等教育専攻	210名	
		中等教育専攻	40名	
健康科学部	保健看護学科		80名	
	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40名	
		作業療法学専攻	40名	
	医療経営管理学科		70名	
大学院	総合福祉学研究科	社会福祉学専攻	13名	収容定員 89名
		福祉心理学専攻	20名	
	教育学研究科	教育学専攻	10名	
通信教育部	社会福祉学科		600名	収容定員 3,200名
	福祉心理学科		200名	
通信制大学院	総合福祉学研究科	社会福祉学専攻	10名	収容定員 40名
		福祉心理学専攻	10名	

社会福祉士（2023年度）
合格者167名（79.5%）
現役合格者数日本一

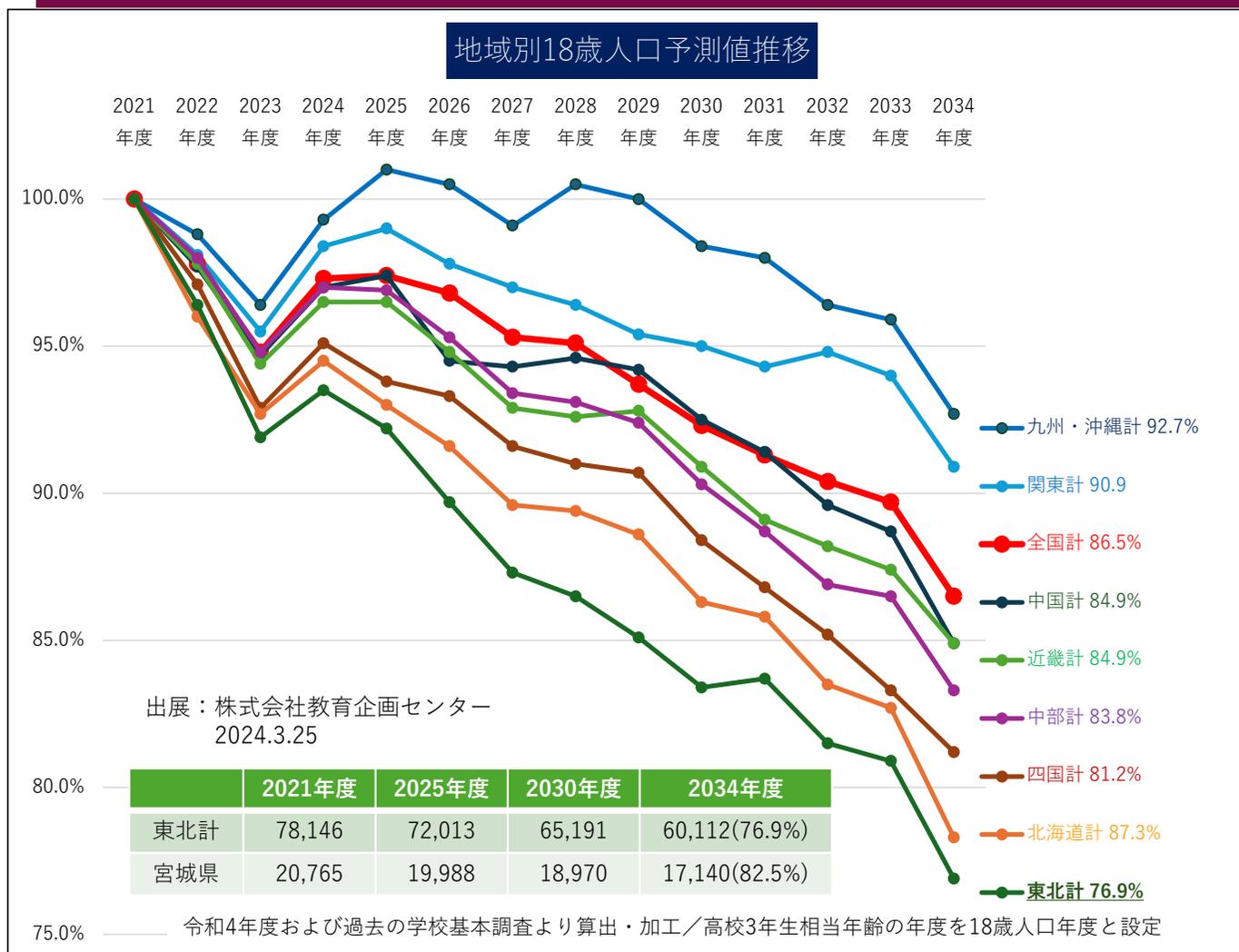
精神保健福祉士（2023年度）
合格者41名（100%）
現役合格者数日本一

特別支援学校教採合格
延べ406人（開設10年）

防災士（2012年より）
9,833人

ボランティア活動(2023年度)
2,312人

東北地方、本学を取り巻く状況



2040年の宮城県進学者数等推計 (2021年基準)

2020年	18歳人口	20,998	
	高校卒業生数	19,412	
	大学進学者数	9,982	
	大学進学率	47.5%	
	大学数	14	
	1	入学定員	11,511
	年	県外から流入	6,061
	県内から流出	4,330	
	自県進学率	56.6%	
2040年	18歳人口推計	13,971	
	大学進学者数推計	7,090	
	大学進学率推計	50.7%	
	大学入学者数推計	9,529	
	入学定員充足率推計	82.8%	

1. 本学の内部質保証システム



本学内部質保証の取組のあゆみ

1991	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価を努力義務化 <p>「自己評価委員会」設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 結果の学外者による検証努力義務化 自己点検・評価の実施と結果公表の義務 	<p>「大学院自己評価委員会」設置</p> <p>「教育業績評価委員会」設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「認証評価制度」導入 提言 <p>FD委員会を設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の実施と結果の公表に係る規定を法律上明記 「認証評価機関による評価制度」の導入 提言 	<p>『教育・研究業績書』を刊行、内外へ配布</p> <p>『自己点検 評価報告書』を刊行 学内外へ発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「認証評価制度」導入 自己点検・評価の公表義務化 <p>【自己点検 評価の実質化】</p> <p>本学受審</p>	<p>第Ⅰ期認証評価</p> <p>学校教育法改正</p>	<p>【内部質保証システムの構築】</p> <p>内部質保証委員会設置</p> <p>本学受審</p>	<p>第Ⅱ期認証評価</p>	<p>【内部質保証システムの有効性】</p> <p>全部門 学部 研究科 事務部署 内部質保証担当者設置</p> <p>認証評価WG立ち上げ / 「点検 評価報告書」作成</p> <p>報告書提出(3月) 本学受審 実地調査</p> <p>第4期認証評価に向けた準備</p>	<p>第Ⅲ期認証評価</p>	<p>【学習成果を基軸に据えた内部質保証の重視とその実質性を問う評価】</p> <p>改善完了報告(7月末期限)</p> <p>改善完了(3月末)</p>	<p>第Ⅳ期認証評価</p>		
大学設置基準改正	大学設置基準改正		経済財政諮問会議 総合規制改革会議	中央教育審議会	学校教育法改正		学校教育法改正								

本学の内部質保証 ～関係諸規程～

■ 方針・規程等

- 内部質保証の方針
- 東北福祉大学 内部質保証規程
- 東北福祉大学 内部質保証委員会規程
- 東北福祉大学 外部評価委員会規程



■ 要項・マニュアル等

- 内部質保証システム実施マニュアル
- 東北福祉大学 教員個人自己点検・評価等実施要項

— 目 次 —

第I章 内部質保証の概要

1. 内部質保証の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 内部質保証システムの組織体系・・・・・・・・・・・・・・ 3

第II章 具体的な内部質保証システムの構築

1. 実施プロセス（恒常的なPDCAサイクルの運用）・・・・・・・・ 5
2. 内部質保証PDCAサイクルのスケジュール・・・・・・・・・・・・ 6
3. PDCAサイクルに基づいた自己点検・評価シート・・・・・・・・ 6
報告書の作成について
4. 内部質保証委員会からのフィードバックについて（様式2）・・・・ 7
5. 自己点検・評価報告書の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
6. 自己点検・評価にあたっての客観的なデータの収集・共有・活用・・・ 8
について
7. 課題の解決、長所の進展に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
8. 全学的な質保証の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

本学の内部質保証 ～組織整備～

■ 「全学内部質保証推進組織」の整備

- 内部質保証の推進に責任を負う全学的組織の設置

内部質保証委員会 (2015年設置)

【構成員】 ◎学長 ○副学長 総務局長 学部長 研究科長
学科長 事務部長・センター長・館長

内部質保証小委員会 (7つの小委員会) (2015年設置)

【構成組織】 学部 4小委員会 (総合福祉_{学部}、総合マネジメント_{学部}、教育_{学部}、健康科学_部)
研究科 2小委員会 (総合福祉学_{研究科}、教育学_{研究科})
事務部門 1小委員会 (自己点検・評価の単位となる全ての事務組織)

【構成員】 ◎学部長[研究科長]、学科長[専攻主任]、内部質保証担当者
◎総務局長、各部局の事務部長、次長、課長、室長、内部質保証担当者

- 事務局機能

内部質保証委員会と事務部門の小委員会：総務部企画課
学部、研究科の小委員会：学部及び研究科

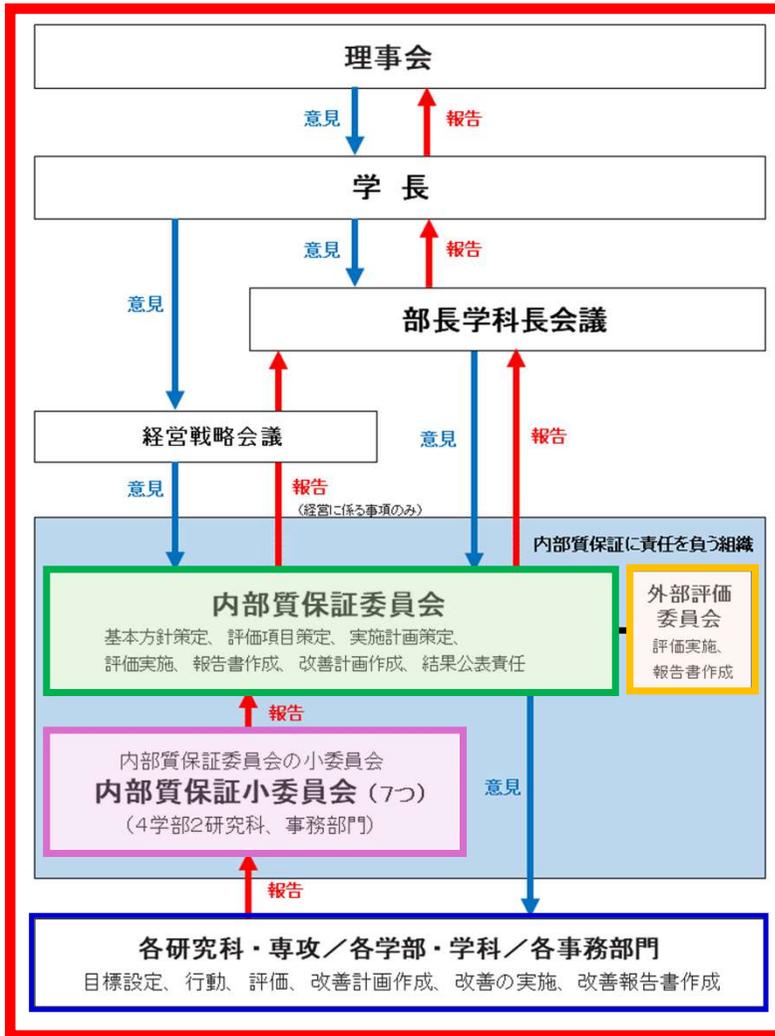
本学の内部質保証 ～内部質保証委員会の役割～

■ 「内部質保証委員会」の役割

- 全学的な基本方針に基づく、
 - 3つの方針の設定状況の確認、3つの方針に基づく教育活動の把握及び促進
 - 教育活動の有効性の検証と検証結果を踏まえた改善・改革プロセスの構築と運営

- 所掌事項
 - 自己点検・評価の基本方針、点検評価項目の策定に係る事項
 - 自己点検・評価の実施、組織及び内部質保証の体制に係る事項
 - 自己点検・評価報告書の作成及び改善方策の策定に係る事項
 - 自己点検・評価結果の公表、外部評価に係る事項
 - 認証評価に係る事項
 - 自己点検・評価及び内部質保証に必要な事項に関する資料収集、調査研究及び啓発活動に係る事項
 - 自己点検・評価結果を踏まえた中期事業計画・事業計画・大学の方針・3ポリシー等の策定及び全学的施策に係る事項

本学の内部質保証 ～組織体制～



内部質保証委員会

全学的な自己点検・評価とその結果に基づく改善・改革を担う。

- ・ 学長
- ・ 副学長
- ・ 総務局長
- ・ 学部長
- ・ 研究科長
- ・ 学科長
- ・ 事務部長
- ・ センター長
- ・ 館長
- ・ その他

内部質保証小委員会

各学部、大学院各研究科及び事務部門の自己点検・評価とその結果に基づく改善・改革を担う。

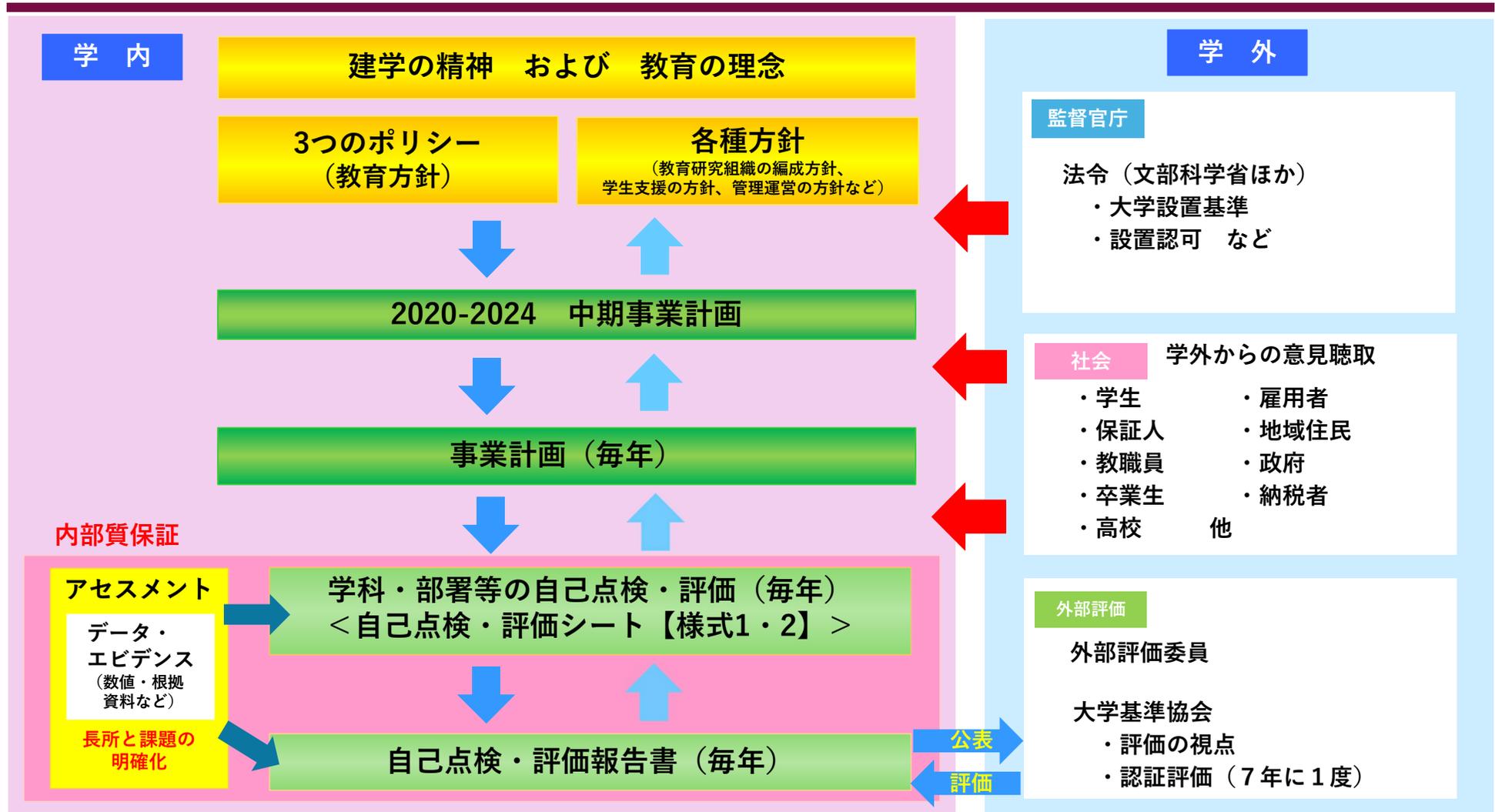
- ・ 各学部 (4)
- ・ 各研究科 (2)
- ・ 事務部門 (1)

外部評価委員会

本学が行う自己点検・評価の結果について、客観性・公平性の担保と教育研究水準の向上のために、外部評価を担う。

- ・ 2015年、2016年、2019年度に実施。
- ・ 2024年（令和6年）度に予定。

内部質保証 自己点検・評価のあり方



内部質保証小委員会①

内部質保証小委員会（7つの小委員会）

【構成組織及び構成員】

4 学部（総合福祉₃学科、総合マネジメント₂学科、教育₁学科、健康科学₃学科）

◎学部長、学科長、内部質保証担当者

2 研究科（総合福祉学₂専攻、教育学₁専攻）

◎研究科長、専攻主任、内部質保証担当者

1 事務部門（自己点検・評価の単位となる全ての事務組織₂₉部署）

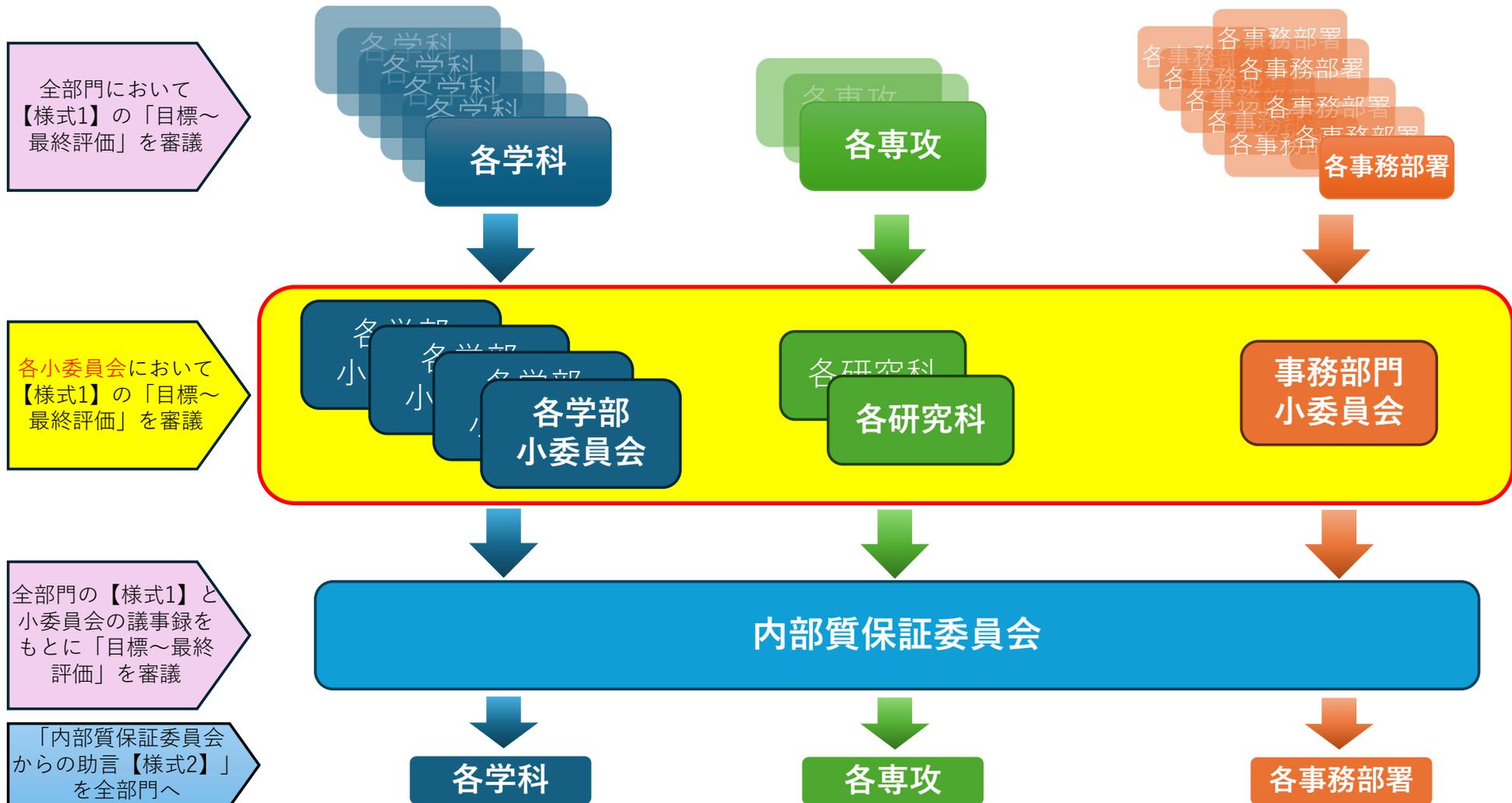
◎総務局長、各部局の事務部長、次長、課長、室長、内部質保証担当者

【事務局機能】

内部質保証委員会と事務部門の小委員会：総務部企画課

学部、研究科の小委員会：学部及び研究科

内部質保証小委員会②



内部質保証小委員会③

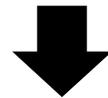
小委員会の議事録の一例（小委員会の議事録より抜粋）

【他学科等に対する意見・質問】

- ・大変詳細な評価、検証がすばらしい ・〇〇の取組の詳細を知りたい ・次年度の本学科の目標設定の際の参考にしたい
- ・達成しやすい目標のみや低すぎる目標も質向上の観点からは不十分ではないか
- ・□□学科で(2)の目標を設定した背景を教えてください ・国家試験合格率向上につながった貴学科の指導体制をご教示願いたい

【報告や全体的な意見】

- ・去年の小委員会での△△学科からのアドバイスをもとに(3)のような目標を設定しました
- ・学科としては不安な側面もあったが、高評価並びにアドバイスも頂き、次年度に向けて着実に進めたい
- ・他学科からも同様の悩みや、助言を求める意見など ・自分の学科会議で実践例等を紹介し学科の教育活動にいかしたい
- ・内部質保証小委員会のほかに、副学科長も入れた意見交換の場があってもよいのではないか
- ・学外意見聴取に対する学部、研究科としての対応について検討 ・学部長から大局的な意見や検討事項の提示や指示など



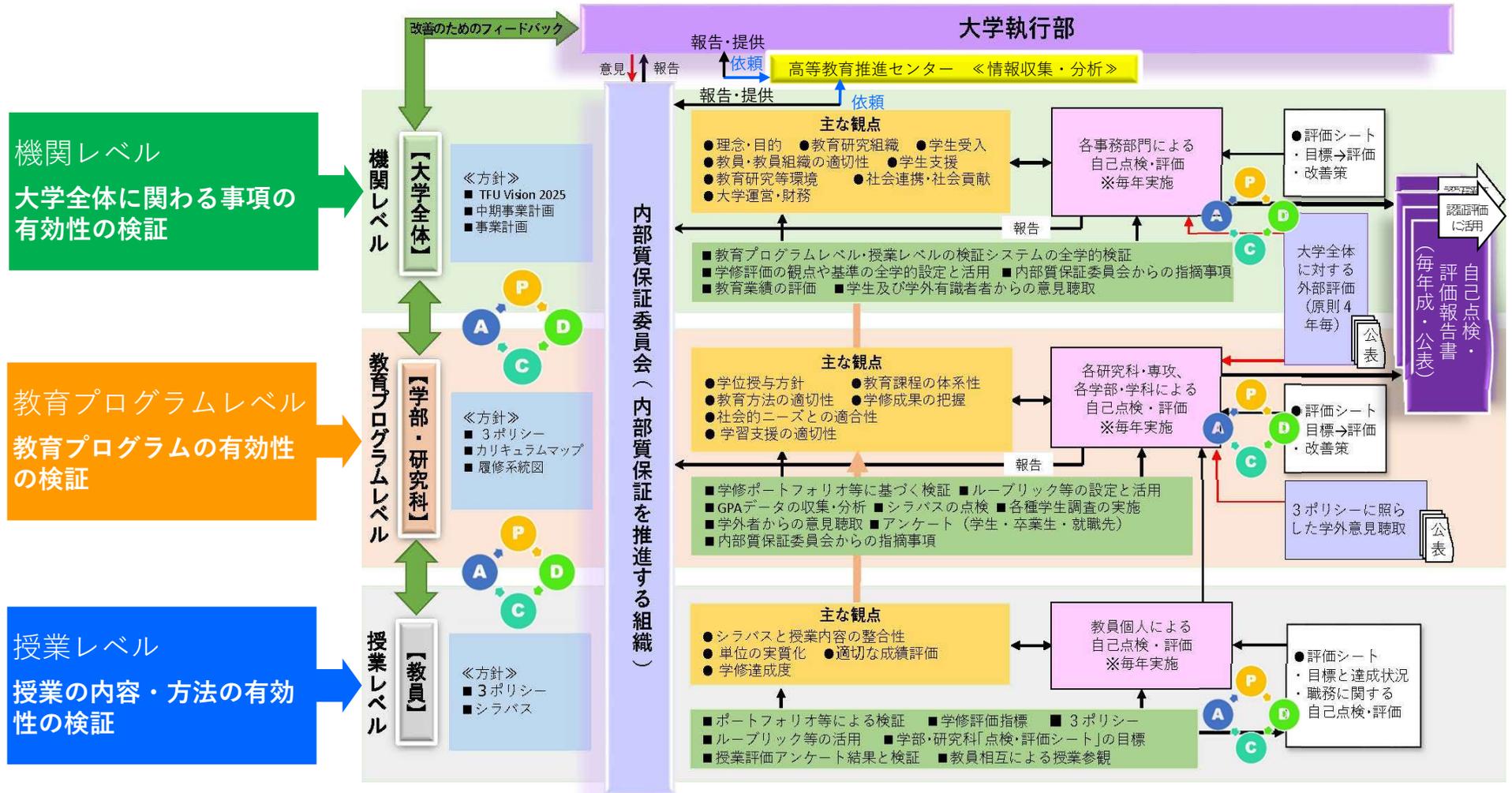
意見や助言を取り入れ

様式1に記載した内容を、小委員会の承諾のもと一部修正する場合もあり

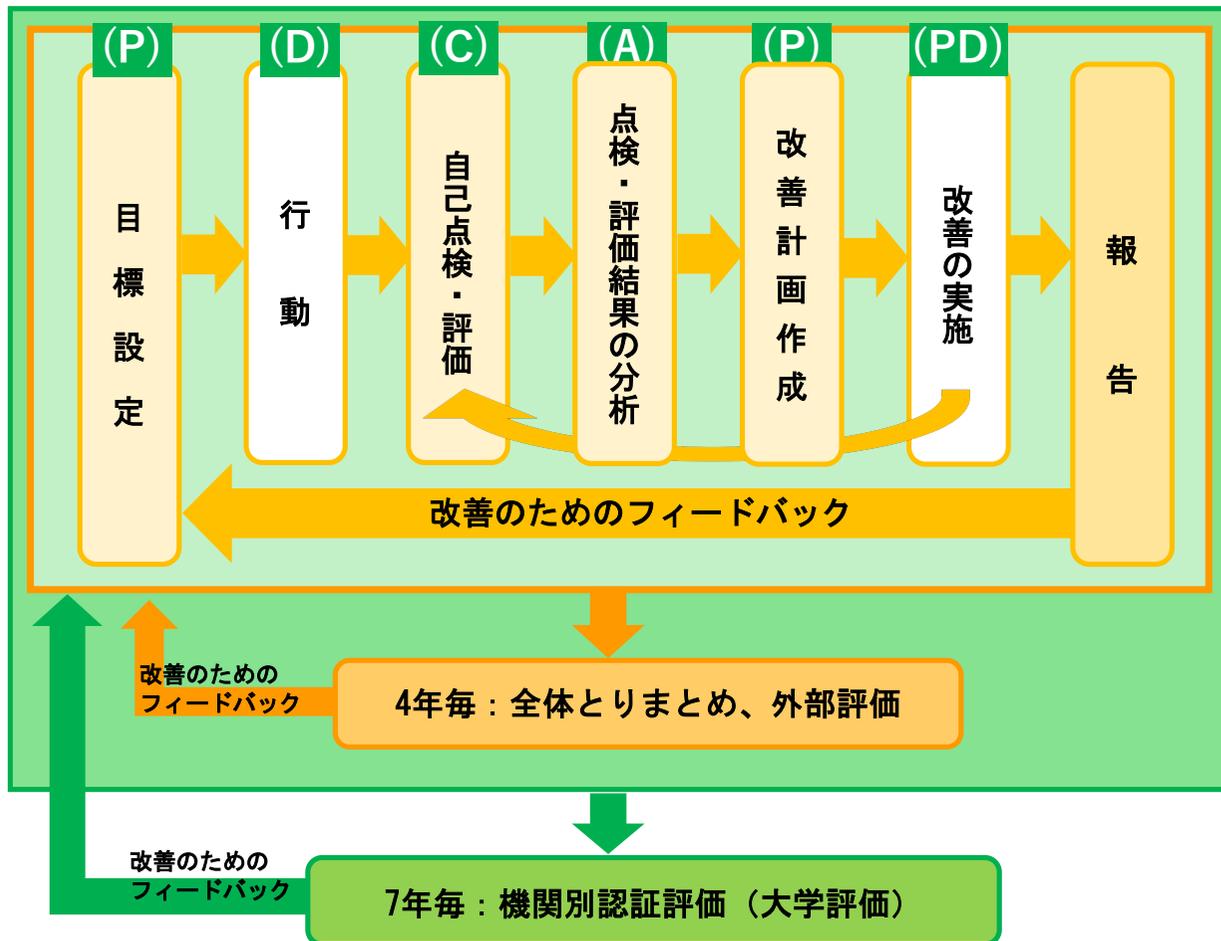
《小委員会のメリット》

- ・小委員会を構成する学科間での情報共有、解決策、対策案などの助言やアイデアが得られる
- ・他学科教員からの学生情報が得られる（自分の学科所属の学生を含めて）
- ・内部質保証委員会での審議事項を前もって整理することができる

内部質保証システム体系図

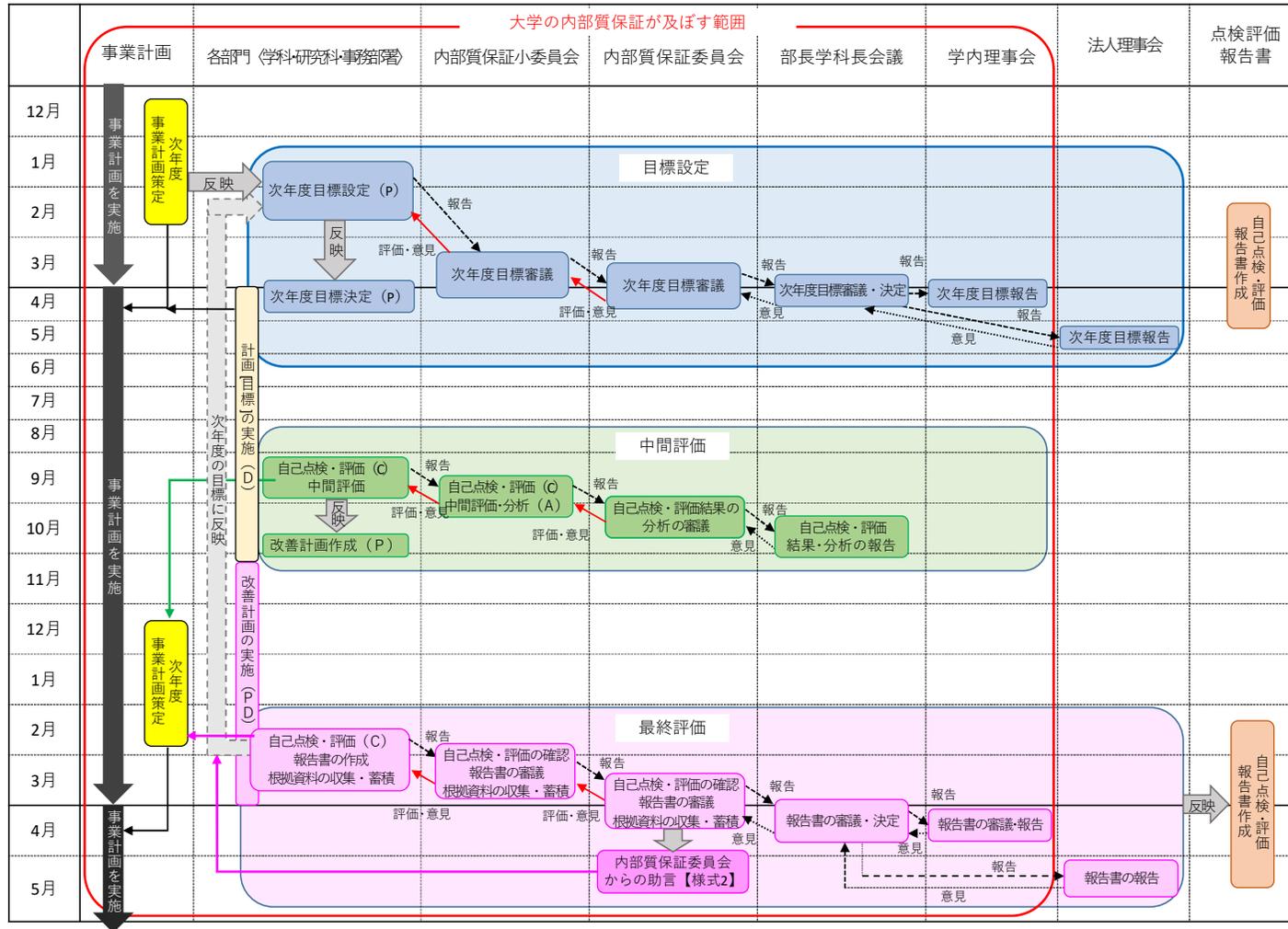


実施プロセス（恒常的なPDCAサイクルの運用）



- ① (P) 各部門は、毎年度末、前年度の実施結果、当該年度の業務を想定し、本学の事業計画、各種方針及び3ポリシーに沿った目標を設定する。
 - ② (D) 目標達成に向け実行する。
 - ③ (C) 中間時点で自己点検・評価をし、目標進捗の確認をする。（中間評価）
 - ④ (A~PD) ③の結果を分析し、場合によっては改善計画のもと目標達成に向け実行する。
 - ⑤ (C) 年度末、1年を通じた自己点検・評価（最終評価）を行う。
 - ⑥ (PD) 委員会より⑤の結果に対するフィードバックを受け、改善策を考え実行する。
- ①～⑥を1クール（1年）として、質保証・質向上に向け恒常的にPDCAサイクルを実施。

PDCAサイクルスケジュール



内部質保証 自己点検・評価シート【様式1】表面

【令和 年度】内部質保証 自己点検・評価シート								【様式1】	
学科・専攻・部署等名：			記入日：令和 年 月 日						
1. 目標（事業計画に関する目標を設定する際、シート「②方針名」より、該当する方針名をコピーペーストしてください）			注）自己評価 ⇒ 「A」：適切に実行し、目標は達成された 「B」：概ね実行し、ある程度効果は上がったが、目標は達成できなかった 「C」：実行したが、効果は上らず課題が残った 「D」：実行できなかった						
目標設定 (R〇.〇月末) ※達成手順及び年度スケジュール（目標達成期日や数値を明記）をご入力ください ※強力的にご入力ください		中間評価 (R〇.〇月末)	最終評価 (R〇.〇月末)				根拠資料・データ		
年度当初の現状と課題	目標	現状報告	自己評価	今年度		次年度以降			
事業計画・大学の方針・3ポリシーに関する目標の記入欄	(1)	【目標】		効果を上げた事項		左記の更なる発展方策			
		【方針名】		課題事項		左記の改善策			
	【達成時期】								
上記以外の各研究科、学部、部署における目標に関する記入欄	(2)	【目標】		効果を上げた事項		左記の更なる発展方策			
		【方針名】		課題事項		左記の改善策			
	【達成時期】								
上記以外の各研究科、学部、部署における目標に関する記入欄	(3)	【目標】		効果を上げた事項		左記の更なる発展方策			
		【達成時期】		課題事項		左記の改善策			
上記以外の各研究科、学部、部署における目標に関する記入欄	(4)	【目標】		効果を上げた事項		左記の更なる発展方策			
		【達成時期】		課題事項		左記の改善策			

内部質保証 自己点検・評価シート【様式1】裏面

2-1. 学外からの意見聴取

※学科・研究科は「学外意見聴取の点検・評価への活用」は必須となっています。

- (1) 学外意見聴取の結果を自己点検・評価に活用してください。 大学HP「学外者からの意見聴取」
参照：<https://www.tfu.ac.jp/ir/company.html>
(2) 学科・部署独自で実施した学外意見聴取があった場合も記載ください。（例）OB・OGへのヒアリング、企業アンケート等

種類（学外意見聴取先名等）	点検・評価結果
1	
2	

2-2. 学生アンケート、ヒアリング等

※学科・研究科は「学生アンケートやの点検・評価への活用」は必須となっています。

- (1) 学生からの意見聴取結果を自己点検・評価に活用してください。
(例) IRセンター実施のアンケート（入学時アンケート等）、学科独自のヒアリング、マイステップ、部署独自集計のアンケート等

種類（アンケート名等）	点検・評価結果
1	
2	

3. 前年度の「自己点検・評価報告書」記載の課題や内部質保証委員会からの指摘事項に対する取り組み

※最終評価時に記載（RO.〇月末まで）。目標に反映させている場合は記載不要です。

指摘事項	具体的取組み
1	
2	

- (1) 前年度の内部質保証委員会からの「評価結果報告書（様式2）」や「自己点検・評価報告書」に今後の課題として取り上げられたことに対し取り組んできたことを記載する。
(2) 課題事項が解決されなかった場合は、次年度の目標設定に反映する。

※本シート（様式1）の記載内容をもとに、内部質保証委員会事務局にて「自己点検・評価報告書」を作成の上、最終チェックを全学科・部署で行います。

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《目標設定その1》

表面

【令和 年度】内部質保証 自己点検・評価シート		【様式1】				
学科・専攻・部署等名: _____		記入日: 令和 年 月 日				
目標 (事業計画に関する目標を設定する際、シート「②方針」より、該当する方針名をコピーペーストしてください)						
1. 目標	記載例①	中間評価 (R.O.○月末)	最終評価 (R.O.○月末)		根拠資料・データ	
	度当初の現状と課題	現状報告	自己評価	今年度		
事業計画・2 (2)	<p>記載例①</p> <p>【注：架空例です】 令和元年度に実施された全学中退者調査の結果によると、過去3年間の本学科の中退率は%と全学で一番高い。学年別中退率をみると、特に1年生が11%と高くなっていることから、1年生に対するフォローが喫緊の課題といえる。</p> <p>※令和元年度中退率 6.9%</p> <p>【目標】 令和2～4年度の3年間の学科内中退率を5%まで引き下げる。そのために、令和2年度の中退率は6% (昨年比-0.9%) を目指す。その中で1年生の中退率は10% (昨年比-1.0%) とする。</p> <p>【方針名】 『事業計画』3-1. 学修支援 『大学の方針』学生支援に関する基本方針 【達成時期】 令和5年 3月末</p>	<p>【目標】 令和2～4年度の3年間の学科内中退率を5%まで引き下げる。そのために、令和2年度の中退率は6% (昨年比-0.9%) を目指す。その中で1年生の中退率は10% (昨年比-1.0%) とする。</p> <p>【方針名】 『事業計画』3-1. 学修支援 『大学の方針』学生支援に関する基本方針 【達成時期】 令和5年 3月末</p>	<p>【現状報告】 1年生へのフォローを厚くするため、リゾンゼミⅠでの個別面談の必修化、学ツアー等を実施し、学生生活への不安解消するよう努めている。2年生以降については例年通りゼミ担当教員と教務、学生生活支援センターと情報共有を行い、保護者への早期連絡等の対策を行っている。</p>	<p>A</p> <p>【自己評価】 効果を上げた事項 令和4年2月現在の調査では、学科内中退率5.9%と目標を達成した。特に力を入れた1年生の中退率は9%となり、昨年比-2%となった。個別面談の必修化などがある程度効果を上げていると考えられる。</p> <p>【課題事項】 目標は達成したが、本学の平均中退率 (4%) より高い水準にあるため、引き続き中退防止策を講じていく。</p>	<p>【今年度】 左記の更なる発展方策 ・面談時、リゾンゼミ副担任にも同席してもらう。もしくはメールアドレスの開示等を行い、気軽に問い合わせできる環境を整える。</p> <p>【次年度以降】 左記の改善策 ・個別面談結果を学科会議で共有し、対応策を検討する。また、学科会議には教務部や学生生活支援センター、キャリアセンターの担当職員も参加してもらい、より細かい情報共有を図る。 ・授業についていけない学生への補講が実施可能な計画</p>	<p>・平成30～令和2年度中退者調査 ・令和3年度 ▲▲学科中退者調査</p>
	<p>記載例②</p> <p>【注：架空例です】 目標設定や自己点検について、学科・学部、各部署間でばらつきがあり、内部質保証への共通認識・理解がまだ不十分な面がある。特に若手、中堅教職員には事業計画が策定された背景や計画を実行するための内部質保証の位置づけ等の説明が足りていない。</p> <p>【目標】 事業計画・中期事業計画の記載事項を担当部署・学科に浸透し、実行されることを、「経営を支援する次代を担う教職員の育成」「内部質保証、内部監査による業務改善の推進」を通じて促進する。その他、学内における内部質保証システムへの理解を深める取り組みを実施する。</p> <p>【方針名】 『事業計画』6-2. 経営を支援する次代を担う教職員の育成 『大学の方針』管理運営の方針 【達成時期】 令和5年 3月末</p>	<p>【目標】 事業計画・中期事業計画の記載事項を担当部署・学科に浸透し、実行されることを、「経営を支援する次代を担う教職員の育成」「内部質保証、内部監査による業務改善の推進」を通じて促進する。その他、学内における内部質保証システムへの理解を深める取り組みを実施する。</p> <p>【方針名】 『事業計画』6-2. 経営を支援する次代を担う教職員の育成 『大学の方針』管理運営の方針 【達成時期】 令和5年 3月末</p>	<p>【現状報告】 内部質保証の理解促進のため、説明資料を作成し、ユニバにて学内全体に周知を行った。 マニュアル様式の改正も行い、より自己点検・評価が実施しやすい形にした。</p>	<p>B</p> <p>【自己評価】 効果を上げた事項 ○内部質保証理解促進のため、説明資料をユニバで配信したところ、△名中△名が確認しており、情報周知の対象が広がった。 ○マニュアルや様式の改正により、事務作業の簡素化が図られたと同時に自己点検・評価報告書もより全学的なものとなった。</p> <p>【課題事項】 ○自己点検・評価にあたって、各学科・部署がデータ・エビデンスを有効活用できるような仕組みに至っていない。 ○関係部署や学科間での議論などをふまえた全学的な自己点検・評価とはなっていない。 ○若手・中堅職員の参加や点検・評価の意義の浸透がはかられていない。</p>	<p>【今年度】 左記の更なる発展方策 ○IRセンターとの連携を強化し、データの管理、各学科・部署への提供方法について検討のうえ、マニュアルに追記・修正する。 ○自己点検・評価報告書の基準ごとに作業グループを作成し、自己点検・評価を実施してもらう。 ○若手・中堅職員に点検・評価に参加してもらう。</p> <p>【次年度以降】 左記の改善策 ・説明事項に対する改善策 (= 課題改善) を記載してください。</p>	<p>・ユニバ掲示説明資料 ・内部質保証マニュアル</p>
記載上のポイント	<p>①目標設定をする上での根拠となる「現状と課題」を記載します。ここで記載した状況により、右の目標設定がされることがあります。 ②記載方法としては、事業計画・方針・ポリシー等に則った目標を上段(水色)記載。次に、それ以外に各学科等、部署等にとっての課題や試みたい目標などを下段(ピンク)に記載してください。</p>	<p>①目標は、出来るだけ簡潔に記載してください。 ②【方針名】には、【中期・R4年度事業計画】【大学の方針】【教育研究上の目的および3ポリシー】のどの方針に則ったものかを明記してください。 ③その際、シート「③方針名」より、該当する方針名を記入例のようにコピーペーストしてください。 ④裏面「D3. 指摘事項」の優先度の高い事項は、入れてください。 ⑤達成時期の記載も必須です。また、昨年度の「自己点検・評価」の結果も記載してください。</p>	<p>中間評価時は上記「現状」のみ記載ください。 例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。</p> <p>最終評価時に、年度を通しての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。(プルダウンで選択できます) 【A】: 適切に実行し、目標は達成された 【B】: 概ね実行し、ある程度効果は上がったが、目標は達成できなかった 【C】: 実行したが、効果は上がらず課題が残った 【D】: 実行できなかった</p>	<p>①最終評価時点で今年度「効果が出たこと」「課題として残ったこと」を各々記載してください。 ②効果・結果の記述にあたっては、数値データによるもの/言語データによるものにより、測定・把握の指標を明確にしてください。 ③達成状況により、どちらか一方の記載となっても構いません。</p> <p>【次年度向け】 【左記の更なる発展方策】 ・効果を上げた事項の、さらに効果上げるための方策 = (長所伸長) を記載してください。 【左記の改善策】 ・課題事項に対する改善策 (= 課題改善) を記載してください。</p>	<p>最終評価時に、評価の根拠となった資料、データ、URLなどを記載ください。</p>	
作成・提出単位	<p>研究科の専攻、学科 (教育研究組織としての通信教育部、通信制大学院は、設置されている学科・研究科の専攻に含める) 事務部署は部・センターごと (配下の課・室とも相談し、取り組む目標が1つ以上になるように作成)</p>					
目標と実行、点検・評価結果などの部署内での共有	<p>□ 目標と実行、点検・評価結果などの部署内での共有</p>					

最終評価時に、「自己評価」「現状」「今後に向けて」を各々記載します。

1. 目標

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 ≪目標設定その2≫

1.目標設定のポイント

【現状と課題】

・前年度の最終評価や自己点検・評価報告書、内部質保証委員会からの助言（様式2）に記載されている現状や課題などを反映。これをベースに目標を設定。

【目標】

・中期計画・事業計画・大学の各種方針、3つのポリシーのどの方針に則った目標かを明記。
 ・達成時期の記載も必須。特に改善したい課題、または伸ばしたい長所にしぼって設定。
 ・目標は、出来るだけ簡潔に。昨年度の「自己点検・評価報告書」の結果や様式2で「今後の課題」とされている課題を記載しているので目標に反映。

※ポイント

- ・「5W1H」に留意
 「When: **いつ**」、「Where: **どこで**」、「Who: **だれが**」、「What: **何を**」、「Why: **なぜ**」、「How: **どのように**」をできるだけ明確に
- ・検討する、～を進める、～を周知する、～に努める、～を目指す、～を確立する ⇒ **どこで、誰が、どのように検討するのか**
- ・～を維持する、継続する ⇒ **長所を継続するのか、課題が改善できなかったから継続するのかを明確に**
- ・～を減らす、増やす ⇒ 可能な限り **どの程度減らすのか、増やすのか数値化する**

【令和 年度】内部質保証 自己点検・評価シート		表面
学科・専攻・部署等名:		記入日: 令和 年 月 日
1. 目標（事業計画に関する目標を設定する際、シート「②方針名」より、該当する方針名をコピーペーストしてください）		
目標設定（R〇、〇月末） ※達成手順及び年度スケジュール（目標達成期日や数値を明記）をご入力ください 記載例①		中間評価（R〇、〇月末）
度当初の現状と課題 【注：架空例です】 令和元年度に実施された全学中退者調査の結果によると、過去3年間の本学の中退率は6%と全学で一番高い。学年別中退率をみると、特に1年生が11%と高くなっていることから、1年生に対するフォローが喫緊の課題といえる。 ※令和元年度中退率 学部全体⇒6.9%	目標 【目標】 令和2～4年度の3年間の学科内中退率を5%まで引き下げる。そのために、令和2年度の中退率は6%（昨年比-0.9%）を目指す。その中で1年生の中退率は10%（昨年比-1.0%）とする。 【方針名】 『事業計画』3-1.学修支援 『大学の方針』学生支援に関する基本方針 【達成時期】令和5年 3月末	現状報告 1 3年生へのフォローを手厚くするため、リゾンゼミⅠでの個別面談の必修化、学コン等を実施し、学生生活への不安を解消するよう努めている。2年生以降については例年通りゼミ担当教員と教務員、学生生活支援センターと情報共有を行い、保護者への早期連絡等の対策を行っている。
記載例② 度当初の現状と課題 目標設定や自己点検について、学科・学部、各部署間でばらつきがあり、内部質保証への共通認識・理解がまだ不十分な面がある。 特に若手、中堅教員には事業計画が策定された背景や計画を実行するための内部質保証の位置づけ等の説明が足りていない。	【目標】 事業計画・中期事業計画の記載事項を担当部署・学科に浸透し、実行されることを、「経営を支援する次代を担う教職員の育成」「内部質保証・内部監査による業務運営の改善」を通じて促進する。その他、学内における内部質保証システムへの理解を深める取り組みを実施する。 【方針名】 『事業計画』6-2.経営を支援する次代を担う教職員の育成 『大学の方針』管理運営の方針 【達成時期】令和5年 3月末	○内部質保証の理解促進のため、説明資料を作成し、ユニバにて学内全体に周知を行った。 ○マニュアルや様式の改正も行い、より自己点検・評価が実施しやすい形にした。
記載上のポイント ①目標設定をする上での根拠となる「現状と課題」を記載します。ここで記載した状況により、右の目標設定がされることとなります。 ②記載方法としては、事業計画・方針・ポリシー等に則った目標を上段（水色）記載。次に、それ以外に各学科等、部署等にとっての課題や試みたい目標などを下段（ピンク）に記載してください。	①目標は、出来るだけ簡潔に記載してください。 ②（〇方針名）には、【中期・R4年度事業計画】【大学の方針】【教育研究上の目的および3ポリシー】のどの方針に則ったものを明記してください。 その際、シート3「方針名」より、該当する方針名を記入例のようにコピーペーストしてください。 ③裏面の「3. 指摘事項」の優先度の高い事項は入れてください。 ④達成時期の記載も必須です。また、昨年度の「自己点	中間評価時は上記「現状」のみ記載ください。 例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《目標設定その3》

※シート「【様式1】定期点検・評価シート」の方針名に、①～③のうち、該当する方針名をコピーペーストしてください
 ※①～③を複数組み合わせ合わせた方針名とすることも可能です

表面

①【中期およびR4年度 事業計画に関する目標設定の方針名】
※各方針名の詳細は下記URLよりご確認ください
<https://drive.google.com/file/d/1Y2RanzMEpK68MSASQ54AP4iTrFzXW6/view>

1	『事業計画』 1-1. 「入学者受入れの方針」の発信と見直し
	『事業計画』 1-2. 入学者選抜方法の見直し
	『事業計画』 1-3. 戦略的な広報による志願者の確保
	『事業計画』 1-4. 地域の高等学校との高大連携強化によるブランディング
	『事業計画』 1-5. 大学院の充実
	『事業計画』 1-6. 入学者数比率および在籍学生比率の改善
2	『事業計画』 2-1. 全学的な教学マネジメント体制の確立
	『事業計画』 2-2. 「卒業認定・学位授与の方針」の全教職員および学生の理解・共有
	『事業計画』 2-3. 学修成果の把握・可視化と教育の質の向上
	『事業計画』 2-4. 入学前教育・初年次教育の充実
	『事業計画』 2-5. キャリア教育の充実
	『事業計画』 2-6. 学生の可能性を引き出す特色ある教育の推進
	『事業計画』 2-7. 地域人材教育の拡充・充実
	『事業計画』 2-8. 教員組織の将来計画
	『事業計画』 2-9. 卒業生との連携
	『事業計画』 2-10. 社会人教育の充実
	『事業計画』 2-11. 国際交流の充実
	『事業計画』 2-12. FD、SDの充実
	『事業計画』 2-13. 認証評価「努力課題」への対応について
3	『事業計画』 3-1. 学修支援
	『事業計画』 3-2. 生活支援
	『事業計画』 3-3. 進路支援
	『事業計画』 3-4. 本育系・文化系団体、サークル活動等の支援
	『事業計画』 3-5. スポーツ・文化等による大学ブランディングの推進
4	『事業計画』 4-1. 地域創生に関する研究
	『事業計画』 4-2. 教育システムに関する研究
	『事業計画』 4-3. 健康科学に関する研究
	『事業計画』 4-4. 研究支援体制の強化
5	『事業計画』 5-1. 本学の専門性をいかした社会貢献・地域連携事業
	『事業計画』 5-2. 学内外とのネットワークの再構築
	『事業計画』 5-3. 大学の研究成果および資源の開放
6	『事業計画』 6-1. 健全なガバナンスの確立
	『事業計画』 6-2. 経営を支援する次代を担う教職員の育成
	『事業計画』 6-3. 内部質保証、内部監査による業務運営の改善
	『事業計画』 6-4. IR機能の強化
	『事業計画』 6-5. 人事評価の導入
	『事業計画』 6-6. SDの充実、外部セミナー参加、資格取得の推進
	『事業計画』 6-7. 教育研究等の環境整備
7	『事業計画』 7-1. 中期計画に基づく財務中期計画の策定
	『事業計画』 7-2. 教育研究活動を安定して遂行するための財務基盤の確立
	『事業計画』 7-3. 認証評価「努力課題」への対応について

②【大学の方針に関する目標設定の方針名】
※各方針名の詳細は下記URLよりご確認ください
https://drive.google.com/file/d/13losZLVeSCmD3_p4oa9tB_TX1eAtKduB/view

『大学の方針』 教育研究組織の編成方針
『大学の方針』 本学の求める教員像および教員組織の編成方針
『大学の方針』 教育研究等の環境整備に関する方針
『大学の方針』 学生支援に関する基本方針
『大学の方針』 管理運営の方針
『大学の方針』 内部質保証の方針
『大学の方針』 学修成果の評価の方針
『大学の方針』 障がい学生の支援に関する方針
『大学の方針』 研究推進の方針

③【教育研究上の目的および3ポリシーに関する目標設定の方針名】
※各方針名の詳細は下記URLよりご確認ください
<https://drive.google.com/file/d/44Me9xLymW6qWrvkVnactWQaQr5U5G5/view?usp=sharing>

『3ポリシー』 AP 求める学生像
『3ポリシー』 AP 入学前に培うことを求める力
『3ポリシー』 AP 評価方法
『3ポリシー』 CP 教育課程編成
『3ポリシー』 CP 学修方法・学修過程
『3ポリシー』 CP 学修成果の評価のあり方
『3ポリシー』 DP 身につけるべき資質・能力の目標
『3ポリシー』 DP 学位授与の要件

【方針名】 記入例として

中期およびR6年度事業計画に関する目標設定の方針名
 ⇒ 事業計画 3-2

大学の方針に関する目標設定の方針名
 ⇒ 内部質保証の方針

教育研究の目的および3ポリシーに関する目標設定の方針名
 ⇒ DP 学修成果の評価のあり方

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《目標設定その4》

1.目標	自己点検について、学科・部間でばらつきがあり、内部質保証への共通認識・理解がまだ不十分な面がある。 特に若手、中堅教職員には事業計画が策定された背景や計画を実行するための内部質保証の位置づけ等の説明が足りていない。	【目標】 事業計画・中期事業計画の記載事項が担当部署・学科に浸透し、実行されることを、「経営を支援する次代を担う教職員の育成」「内部質保証、内部監査による業務運営の改善」を通じて促進する。その他、学内における内部質保証システムへの理解を深める取り組みを実施する。 【方針名】 『事業計画』6-2. 経営を支援する次代を担う教職員の育成 『大学の方針』管理運営の方針 【達成時期】令和5年 10月 31日 末	○内部質保証理解促進のため、説明資料を作成し、ユニバにて学内全体に周知を行った。 ○マニュアルや様式の改正も行い、より自己点検・評価が実施しやすい形にした。	○内部質保証理解促進のため、説明資料をユニバで配信したところ、△名中△名が確認しており、情報周知の対象が広がった。 ○マニュアルや様式の改正により、事務作業の簡素化が図られたと同時に自己点検・評価報告書もより全学的なものとなった。	左記の更なる発展方策	○内部質保証の理解をさらに深めるため、内部質保証に関する説明会の実施を行う。(実務的なもの、事業計画との連動、社会情勢との関わり等	表面 ・ユニバ掲示説明資料 ・内部質保証マニュアル	
	(2)		○自己点検・評価にあたって、各学科・部署がデータ・エビデンスを有効活用できるような仕組みに至っていない。 ○関係部署や学科間での議論などをふまえた全学的な自己点検・評価とはなっていない。 ○若手・中堅教職員の参加や点検・評価の意義の浸透がはかられていない。	左記の改善策	○IRセンターとの連携を強化し、データの管理、各学科・部署への提供方法について検討のうえ、マニュアルに追記・修正する。 ○自己点検・評価報告書の基盤ごとに作業グループを作成し、自己点検・評価を実施してもらう。 ○若手・中堅教職員に点検・評価に参加してもらう。			
記載上のポイント	①目標設定をする上での根拠となる「現状と課題」を記載します。ここで記載した状況により、右の目標設定がされることとなります。 ②記載方法としては、事業計画・方針・ポリシー等に則った目標を上段(水色)記載。次に、それ以外に各学科等、部署等にとっての課題や試みたい目標などを下段(ピンク)に記載してください。	①目標は、出来るだけ簡潔に記載ください。 ②【方針名】には、【中期・R4年度事業計画】【大学の方針】【教育研究上の目的および3ポリシー】のどの方針に則ったものかを明記してください。 その際、シート3「方針名」より、該当する方針名を記入例のようにコピーペーストしてください。 ③裏面の「3. 指摘事項」の優先度の高い事項は入れてください。 ④達成時期の記載も必須です。また、昨年度の「自己点検・評価」の結果も記載してください。	中間評価時は上記「現状のみ」記載ください。 例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。	最終評価時に、年度を通しての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。(プルダウンで選択できます) 「A」: 適切に実行し、目標は達成された 「B」: 概ね実行し、ある程度効果は上がったが、目標は達成できなかった 「C」: 実行したが、効果は上がらず課題が残った 「D」: 実行できなかった	①最終評価時点で今年度「効果が出たこと」「課題として残ったこと」を各々記載してください。 ②効果・結果の記述にあたっては、数値データによるもの/言語データによるものにより、測定・把握の指標を明確にしてください。 ③達成状況により、どちらか一方のみの記載となって構いません。	左記の更なる発展方策 左記の改善策	次年度向け、【左記の更なる発展方法】 ・効果上げた事項の、さらに効果上げるための方策 = (長所伸長) を記載してください。 【左記の改善策】 ・課題事項に対する改善策 (= 課題改善) を記載してください。	最終評価時に、評価の根拠となった資料、データ、URLなどを記載ください。
	(4)	【目標】 【方針名】 『3ポリシー』AP 求める学生像	【達成時期】 令和5年 10月 31日 末	効果を上げた事項	課題事項	左記の更なる発展方策 左記の改善策		
上記以外の各研究科、学部、学域、学術部等における目標に関する記入欄	年度当初の現状と課題	目標	現状報告	自己評価	今年度	次年度以降		
	(1)	【目標】 【達成時期】 【達成時期】		効果を上げた事項	課題事項	左記の更なる発展方策 左記の改善策		
(2)	年度当初の現状と課題	目標	現状報告	自己評価	今年度	次年度以降		
	【目標】 【達成時期】			効果を上げた事項	課題事項	左記の更なる発展方策 左記の改善策		

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《中間評価》

1. 目標

【令和6年度】内部質保証 自己点検・評価シート		記入日：令和6年 月 日		【様式1】		表面	
1. 目標（事業計画に関する目標を設定する際、シート「②方針名」より、該当する方針名を記入してください）		中間評価 (R○, ○月末)		最終評価 (R○, ○月末)		供給資料・データ	
事業計画、大学の方針・3年	記載例① 年度当初の現状と課題 (注：架空例です) 令和元年度に実施された全期中進者調査の結果によると、過去3年間の本学の中進率は10%と全学で一番高い。学年別中進率をみると、特に1年生が11%と高くなっていることから、1年生に対するフォローが喫緊の課題といえる。 ※令和元年度中進率 ・学科全体⇒9.9% ・1年生⇒11%	目標設定 (R○, ○月末) ※達成手続及び年度スケジュール (目標達成期日や数値を明記) をご入力ください ※端的にご入力ください 目標 令和2～4年度の3年間の学科内中進率は5%まで引き上げる。そのために、令和2年度の中進率は4% (昨年度比0.9%) を目指す。その中で1年生の中進率は10% (昨年度比1.0%) とする。 方針名 『事業計画』3-1. 学修支援 『大学の方針』学生支援に関する基本方針 達成時期 令和5年 3月末	現状報告 1年生へのフォローを手厚くするため、リエンゼミ1～3での個別面談の必修化、学内ツアーを実施し、学生生活への不安を解消するよう努めている。2年生以降については例年通りゼミ担当教員と教務部、学生生活支援センターと情報共有を行い、保護者への早期連絡等の対策を取っている。	自己評価 A 効果を上げた事項 令和4年2月現在の調査では、学科内中進率5.9%と目標を達成した。特に力を入れた1年生の中進率は9%となり、昨年度比2%となった。個別面談の必修化などがある程度効果を上げていると考えられる。 課題事項 目標は達成したが、本学の平均中進率(4%)より高い水準にあるため、引き続き中退防止策を講じていく。	今年度 左記の更なる発展策 ・面談時、リエンゼミ副担任にも同席してもらう。もしくはメールアドレスの明示等を行い、気軽に問い合わせできる環境を整える。 次年度以降 左記の改善策 ・個別面談結果を学科会議で共有し、対応策を検討する。また、学科会議には教務部や学生生活支援センター、キャリアセンターの担当職員も参加してもらい、より細やかな情報共有を図る。 ・授業についていけない学生への補講が実施可能か計画する。	・平成30～令和2年度中進者調査 ・令和3年度 ▲▲▲学科中進者調査 ・ユニバ提示説明資料 ・内部質保証マニュアル	
	記載例② 年度当初の現状と課題 目標設定や自己点検について、学科・学部、各部期間でばらつきがあり、内部質保証への共通認識・理解がまだ不十分である。また、特に若手、中堅教職員には事業計画が策定された背景や計画を実行するための内部質保証の位置づけ等の説明が足りていない。	目標 事業計画・中期事業計画の記載事項を担当部署・学務課へ、実行されることを、「経営を支援する次世代教職員の育成」「内部質保証、内部監査による業務の改善」を通じて促進する。その他、学内における質保証システムへの理解を深める取り組みを実施する。 方針名 『事業計画』4-2. 経営を支援する次世代教職員の育成 『大学の方針』管理運営の方針 達成時期 令和5年 3月末	現状報告 ○内部質保証の理解促進のため、説明資料を作成し、ユニバにて学内全所に周知を行った。 ○マニュアルや様式の改正も行い、より自己点検・評価が実施しやすい形にした。	自己評価 B 効果を上げた事項 ○内部質保証理解促進のため、説明資料をユニバで配信したところ、△名中△名が確認しており、情報周知の対象が広がった。 ○マニュアルや様式の改正により、事務作業の簡素化が図られたと同時に自己点検・評価報告書もより全学的なものとなった。 ○自己点検・評価にあたって、各学科・部署がデータ・エビデンスを有効活用できるような仕組みが整っていない。 ○関係部署や学科間での議論などをふまえた全学的な自己点検・評価とはなっていない。 ○若手・中堅教職員の参加や点検・評価の意義の浸透がはかられていない。	今年度 左記の更なる発展策 ○IRセンターとの連携を強化し、データの管理、各学科・部署への提供方法について検討のうえ、マニュアルに追記・修正する。 ○自己点検・評価報告書の基準ごとに作業グループを作成し、自己点検・評価を実施してもらう。 ○若手・中堅教職員に点検・評価に参加してもらう。		・ユニバ提示説明資料 ・内部質保証マニュアル
記載上のポイント ① 目標設定をする上での根拠となる「現状と課題」を記載します。ここで記載した状況により、右の目標設定がされることとなります。 ② 記載方法としては、事業計画・方針・ポリシー等に則った目標を上段(水色)記載。次に、それ以外に各学科等、部署等にとっての課題や試みたい目標などを下段(ピンク)に記載してください。	① 目標は、出来るだけ簡潔に記載してください。 ② ①(方針名)には、【中期・R4年度事業計画】【大学の方針】【教育研究上の目的および3ポリシー】のどの方針に則ったものを明記してください。 その際、シート3「方針名」より、該当する方針名を記入例のようにコピーペーストしてください。 ③ 裏面の「3. 指摘事項」の優先度の高い事項は入れてください。 ④ 達成時期の記載も必須です。また、昨年度の「自己点検・評価報告書」の結果もふまえて検討してください。(課題が未達成のものなど)	最終評価時 に、年度を通じての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。(プルダウンで選択できません)例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。 「A」: 適切に実行し、目標は達成された 「B」: 概ね実行し、ある程度効果は上がったが、目標は達成できなかった 「C」: 実行したが、効果が上がらず課題が残った 「D」: 実行できなかった	最終評価時 に、年度を通じての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。(プルダウンで選択できません)例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。 ① 最終評価時点で今年度「効果が出たこと」「課題として残ったこと」を各々記載してください。 ② 効果・結果の記述にあたっては、数値データによるもの/言語データによるものにより、測定・把握の指標を明確にしてください。 ③ 達成状況により、どちらか一方のみの記載となっても構いません。	最終評価時 に、年度を通じての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。(プルダウンで選択できません)例年より2か月ほど早いスケジュールとなっております。 次年度に向け、【左記の更なる発展策】 ・効果を上げた事項の、さらに効果上げるための方策 = (長所伸長) を記載してください。 【左記の改善策】 ・課題事項に対する改善策 (= 課題改善) を記載してください。	最終評価時 に、評価の根拠となった資料、データ、URLなどを記載ください。		
作成・提出単位 研究科の専攻、学科 (教育研究組織としての通信教育部、通信制大学院は、設置されている学科・研究科の専攻に含める) 事務部署は部・センターごと (配下の課・室とも相談し、取り組む目標が1つ以上になるように作成)	目標や実行、点検・評価結果などの部署内での共有						

最終評価時に、「自己評価」「現状」「今後に向けて」を各々記載します。

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《最終評価その1》

【様式1】

■ 最終評価のポイント (2月末提出)

【自己評価】

・年度を通しての自己評価

- 「A」：適切に実行し、目標は達成された
- 「B」：適切に実行し、ある程度効果は上がったが、目標は達成されなかった
- 「C」：実行したが、効果は上がらず課題が残った
- 「D」：実行できなかった

【今年度】と【次年度以降】に記載欄を分けたことによりそれぞれ、

- 『効果を上げた事項』⇒『更なる発展方策』（長所進展）
- 『課題事項』⇒『改善策』（課題改善）に対応する事項を記載

【根拠資料】

・最終評価時に、評価の根拠となった資料、データ、URLなどを記載

自己評価		今年度		次年度以降		根拠資料・データ
A	効果を上げた事項	令和4年2月現在の調査では、学科内中退率5.9%と目標を達成した。特に力を入れた1年生の中退率は9%となり、昨年比-4%となった。個別面談の必修化などがある程度効果を上げていると考えられる。	左記の更なる発展方策	面談時、リゾンゼミ副担任にも同席してもらおう。もし可能であればメールアドレスの開示等を行い、気軽に問い合わせできる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30～令和2年度中退者調査 ・令和3年度 ▲▲▲学科中退者調査 	
	課題事項	目標は達成したが、大学の平均中退率（4%）より高い水準にあるため、引き続き中退防止策を講じていく。	左記の改善策	個別面談結果を学科会議で共有し、対応策を検討する。また、学科会議には教務部や学生生活支援センター、キャリアセンターの担当職員も参加してもらい、より細かい情報共有を図る。授業についていけない学生への補講が実施可能な計画を		
B	効果を上げた事項	○内部質保証理解促進のため、説明資料をユニバで配信したところ、△名中△名が確認しており、情報周知の対象が広がった。 ○マニュアルや様式の改正により、事務作業の簡素化が図られたと同時に自己点検・評価報告書もより全学的なものとなった。	左記の更なる発展方策	○内部質保証の理解をさらに深めるため、内部質保証に関する説明会の実施を行う。（実務的なもの、事業計画との連動、社会情勢との関わり等	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバ掲示説明資料 ・内部質保証マニュアル 	
	課題事項	○自己点検・評価にあたって、各学科・部署がデータ・エビデンスを有効活用できるような仕組みに至っていない。 ○関係部署や学科間での議論などをふまえた全学的な自己点検・評価とはなっていない。 ○若手・中堅職員の参加や点検・評価の意義の浸透がはかられていない。	左記の改善策	○IRセンターとの連携を強化し、データの管理、各学科・部署への提供方法について検討のうえ、マニュアルに追記・修正する。 ○自己点検・評価報告書の基準ごとに作業グループを作成し、自己点検・評価を実施してもらう。 ○若手・中堅職員に点検・評価に参加してもらう。		
最終評価時に、年度を通しての自己評価を行います。A～Dの中から選択してください。（プルダウンで選択できます）		①最終評価時点で今年度「効果が出たこと」「課題として残ったこと」を各々記載してください。 ②効果・結果の記述にあたっては、数値データによるもの／言語データによるものにより、測定・把握の指標を明確にしてください。 ③達成状況により、どちらか一方の記載となっても構いません。		次年度に向け、 【左記の更なる発展方法】 ・効果を上げた事項の、さらに効果上げるための方策＝（長所伸長）を記載してください。 【左記の改善策】 ・課題事項に対する改善策（＝課題改善）を記載してください。		最終評価時に、評価の根拠となった資料、データ、URLなどを記載ください。
	効果を上げた事項		左記の更なる発展方策			
	課題事項		左記の改善策			

最終評価時に、「自己評価」「現状」「今後に向けて」を各々記載します。

表面

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《最終評価その2》

裏面

2. 客観的視点やデータ・エビデンスに基づいた検証 ※最終評価時に記載（R4.2月末まで）。意見聴取やアンケート結果の検証が年度をまたぐ場合は、その旨を「点検・評価結果」に記載し、4月上旬までに再提出し。

2-1.学外からの意見聴取

記載例	種類	記載上のポイント	点検・評価結果
1	〔種類〕 3ポリシーに照らした取り組みの適切性意見聴取報告書（概要版） 〔意見聴取先〕 記載なし	・学外意見聴取は、基本的に毎年大学としても実施します。よって、該当年度の意見聴取結果をご活用ください。 実施した結果は、大学HP（ https://www.tfu.ac.jp/ir/company.html ）に掲載してありますので参考にしてください。 ・学科や部署独自の意見聴取も積極的に実施し、活用ください。 ・外部評価については4年に1度実施しているため、毎年利用できるものではありません。該当年度には周知しますので、参考にしてください。	点検・評価結果欄には ・左記に記載した意見聴取内容の検証結果 ・検証結果を、どのように自己点検・評価に活用したか（学科会議等で情報共有をした、検討会を開催した等） ・自己点検・評価の結果（今後の取り組みにいかせそうなのか）等を記載してください。 もしくは、既に学科・部署として「点検・評価結果」をまとめたものがあればそちらを提出していただいても構いません。 その際、点検・評価結果欄には「別紙●●資料を参照」等と記載してください。
2	〔種類〕 OB・OGへのヒアリング 〔意見聴取先〕 ○○学科 ○○年卒（勤務先：○○会社） 〔種類〕 令和元年度 外部評価	〔注：架空例です〕 授業外学修時間は伸びており、オンライン授業を継続する学生も過半数はいるが、学生同士や教員に直接会えないこと、オンラインではできないことをあげる学生も7割以上おり、また、教員アンケートでD P達成度が落ちていることを指摘する声が多く、対面授業とオンライン授業のハイブリッド化を推進し、授業の質をあげていくことが求められる。この結果をうけて、相談方法から取入面、学生生活満足度などで、個別に支援を要する学生へのフォローの実施について、学科会議で検討を始めた。	

2-2.学生アンケートヒアリング等

記載例	種類	点検・評価結果
1	〔種類〕 マイステップ 〔対象〕 1～4年生 ●●	別紙1「○○学科 ○○資料」参照
2	〔種類〕 新型コロナ対応 〔対象〕 1～4年生 ●●	

「2. 客観的視点やデータ・エビデンスに基づいた検証」

- ・内部質保証においてはその実質化に向け、**データ・エビデンスの活用**が求められる
- ・その**検証結果を報告**
- 各研究科・学科
 - ・ **3ポリシーに照らした取り組みの適切性に関する意見聴取**
 - ・ マイステップ
 - ・ **学生アンケート**
 - ・ 各種ヒアリング等（OBやOG他）
 - ・ **外部評価**
- 事務部署
 - ・ 該当するデータがある場合は記載

自己点検・評価シート【様式1】の記入の仕方 《最終評価その3》

裏面

「3. 前年度の『自己点検・評価報告書』記載の課題や内部質保証委員会からの指摘事項に対する取り組み」

- ・ 指摘事項に対する取り組み内容を記載
- ・ 指摘事項がなかった場合や当該年度目標設定に反映させている場合は「具体的取り組み」欄は記載不要
- ・ 課題が当該年度に解決にいたっていない場合は、次年度目標に反映

2	[対象]	
3	画部に相談するなどして検討してください。	

3.前年度の「自己点検・評価報告書」記載の課題や内部質保証委員会からの指摘事項に対する取り組み

記載例	指摘事項	具体的取り組み
1	「4. 各種調査等の検証」に記載されている「内部質保証の根拠としての開示は今後積極的に進める必要がある」ことから、内部質保証システムの構築にあたって、現状の課題、実施した結果の効果のデータ・エビデンスを担当学科・部署に提示できるような体制を構築し実行すること。	マニュアルにおいて、データ・エビデンスの活用について記載したが実際はIRセンターとの検討が進んでいない。来年度の目標設定に反映させる。
2	「自らの責任で、本学の教育の質を保証し向上させ、社会の信頼を強固なものにする」という内部質保証の方針から、企画部分学規程にある ・大学の基本的計画にかかわる調査・立案 ・各部に亘る重要部門業務計画の策定及び実施にかかわる総合調整 ・規程の管理に関すること が適切に実施できる体制を構築し実行することを2020年度目標に加え、自部署の課題・弱みを改善すること。	規程の管理に関することについては、システム導入の提案などを総務課に提出しているが検討は進んでいない。しかし、企画部内の業務フローは整備したため、ユニバへ規程アップの際のミスは格段に減っている。 引き続き、全学的なマニュアルの作成とシステム導入についての情報収集を
3	事業計画と予算、事業報告と決算を連動させるよう、財務部をはじめ他部署・学科と調整を図ること。	令和3年度から事業計画と予算との連動がされるよう、財務部をはじめ他部署調整予定である。

記載上のポイント

- ・前年度の「自己点検・評価報告書」に記載されていた課題や、内部質保証委員会からの指摘事項があった場合は、**最終評価時に**、その課題にどう取り組んだかを記載してください。指摘事項がなかった場合、指摘を受けて目標設定に反映させている場合は空欄で構いません。
- ・課題が解決されなかった場合は、次年度の目標設定に反映させてください。

(1) 「自己点検・評価報告書」に今後の課題として取り上げられたことや、前年度の内部質保証委員会からの「評価結果報告書（様式2）」に対し取り組んできたことを記載する。
 (2) 課題事項が解決されなかった場合は、次年度の目標設定に反映する。

※本シート（様式1）の記載内容をもとに、内部質保証事務局にて「自己点検・評価報告書」を作成の上、最終チェックを全学科・部署で行います。

評価結果報告書（内部質保証委員会からの助言）【様式2】の作成について

【様式2】	
提出日：令和年月日	
令和 年度 評価結果報告書（内部質保証委員会からの助言）	
	研究科・学部・部等名
1. 総評	
2. 長所・特色	
3. 今後の課題	

1. 総評

【全研究科・学科共通】

第3期認証評価では、皆様のご尽力のおかげで「適合」の評価をいただきました。資料作成や当日の面談等についてご協力いただきありがとうございました。評価結果では「提言」として3件の長所を取り上げていただきましたが、同時に是正勧告3件、改善課題4件、その他「提言」として取り上げられていないものの課題として指摘されている事項が数点ございます。

特に「第4章 教育課程・学修成果」は、

また、令和6年度は、.....、中期事業計画（2020-2024）の最終年度であることから、令和6年度の目標設定にあたっては以下に留意して設定し、対応をお願いいたします。

- ①第3期認証評価において、課題として取り上げられているもの
- ②中期事業計画および令和6年度事業計画の達成に向け、各部署で取り組むべきもの
- ③各研究科・学科が課題として考えていることの改善（特に自己評価がC以下のもの）や長所の進展

2. 長所・特色

【◇◇学科】

○学修成果の把握と、学生への有益なフィードバックについて検討を重ね、回答率を徐々に上げている点は今後も継続していただきたい。

【△△学科】

○。。。を招いての講義や公務員に内定した学生による講義等、学科特性に合わせたキャリア教育を積極的に行い、成果に結びつけている点は評価できる。また.....。

3. 今後の課題

大学認証評価において提言された「□□学部」に関わる改善課題は下記の通りです。

【改善課題】

○.....。

以下に記載する「今後の課題」では、先に示した認証評価における提言の他、評価結果本文において提言以外に指摘されている課題や「様式1」に対しての局長コメント等をもとに、改善をお願いしたい事項、今後も発展的に実施していただきたい事項について記載しています。その中でも、赤字は早急な改善を求めるものや優先度の高いものです。必ず令和6年度の目標設定に反映してください。さらに大学として強い要望があるものについては、太字で表記しています。青字は、事務局からの提案です。ご検討ください。

その他（黒字）については、目標への反映は必須ではありません。しかしその場合は、様式1「3. 内部質保証委員会からの指摘事項に対する取り組み」に、「具体的取り組み」の記述をお願いいたします。

【全研究科・学科共通】

○.....および全学で実施している.....が指摘されています。各教員への*****を促してください。

【■■学科】

○.....が開始されることから、.....センターや*****支援室と連携して遅滞のないよう取組んでください。

【△▽学科】

○.....を活用して、◇◇学科から□□□□学分野への進学について検討してください。

【☆☆学科】

○.....の活動実績が弱いと大学評価で指摘されているため、□□□□□□□□□□などの取組を他学科にも提供していただきたい。

最終評価【様式1】の記載にあたって

1) 下記について記載漏れのないようご注意ください。

★学外からの意見聴取（学科必須）

⇒3ポリシーに照らした学外意見聴取報告書を確認し、学科内で点検・評価した結果を記載してください。

★学生アンケート、ヒアリング等（学科必須）

⇒アンケート、ヒアリングの種類は問いませんが、アンケートを活用し点検・評価した結果を記載してください。

★前年度の「自己点検・評価報告書」記載の課題や内部質保証委員会からの指摘事項に対する取り組み

⇒目標設定に反映していない課題については、取り組み内容や進捗を記載してください。

2) 数値等で確定値が出ていないものについては、その旨分かるように記載してください。

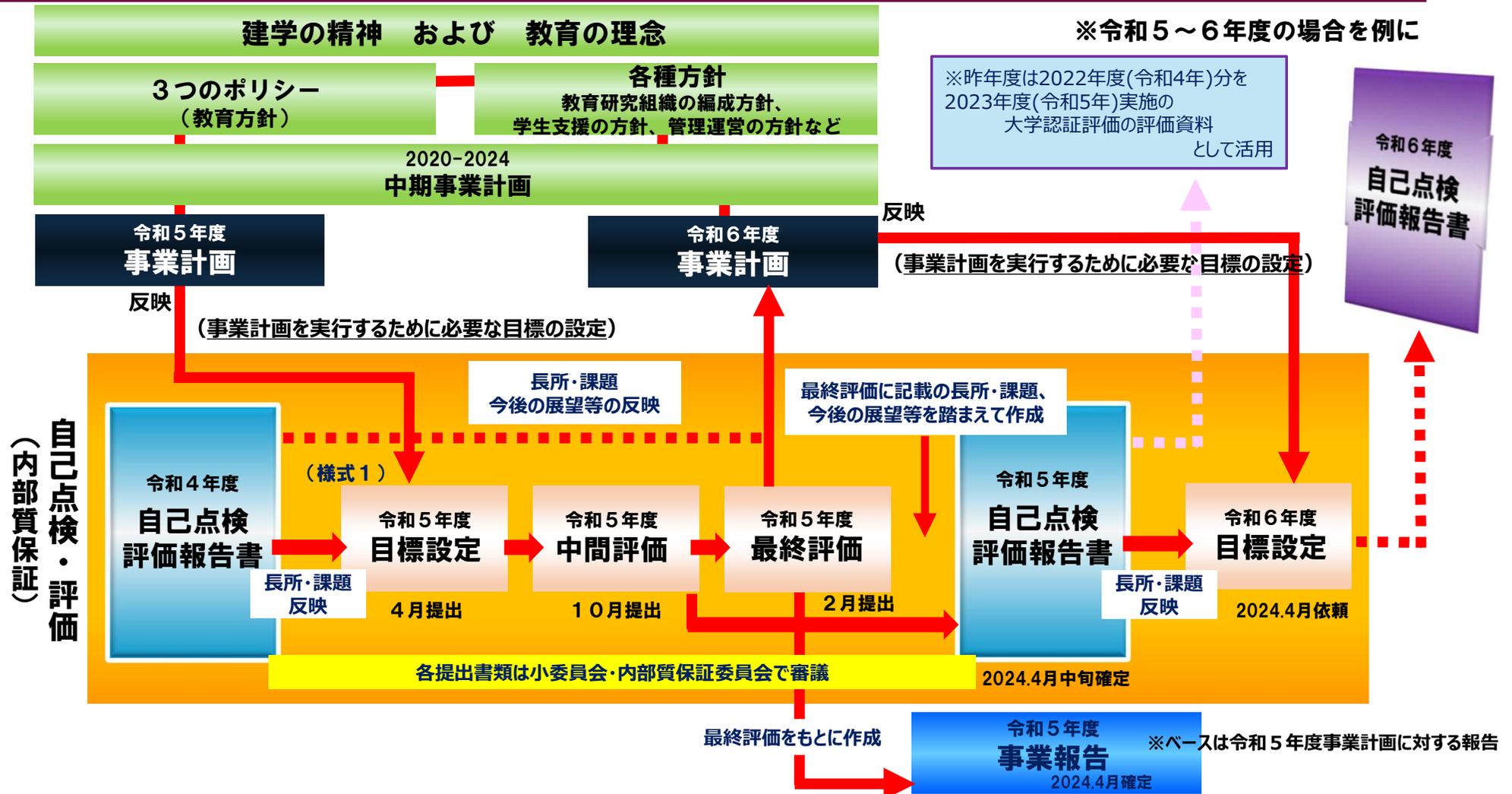
事業報告内容の提出

2. 事業報告について

- 1) 別途エクセルファイル「**R5年度 事業報告用**」で報告していただきます。
R6年度事業計画作成時と同様に「担当部門確認表」等から、担当部門の該当箇所を確認してください。
- 2) 下記の図の通り、**様式1において事業計画とリンクした目標設定をされているものについては、最終評価でご報告いただくため、「R5年度 事業報告用」ファイルでは記載不要**です（グレー部分）。様式1にて事業計画とリンクした目標設定をしていないもののみ、「R5年度 事業報告用」ファイルに記載してください。

項目	中期計画	R5年度事業計画	担当	R5年度中間評価	R5年度 事業報告案
「入学者受入れの方針」の発信と見直し	「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」（以下、AP）について、ホームページや募集要項を通じて学内外に発信し周知する。また、「教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「卒業認定・学位の授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（以下、DP）」との整合性の観点から見直しを行っていく。	①APについて、大学広報と入試広報で連携し、学内外に発信し周知することが求められていることから、校内ガイダンスや相談会を増やしていく。	入学センター	上半期、本学が求める学生像に相応する進学相談会や校内ガイダンスに積極的に参加し、本学の理念や各学科の特徴について周知した。（10月終了時点） ・進学相談会 65会場（昨年度38会場） ・校内ガイダンス 122校（昨年度82校） ・出張講義 32校（昨年度34校） 今後は、リエゾン教育プログラムのアンケート等の結果から、次年度の改善に向けての検討を進めていく。また、各業者（進研アド）の協力を得て、各学科会議において、入試分析結果を報告する機会を設け情報共有を行っていく。	記載不要
			PR課	「様式1」に事業計画とリンクした目標設定及び中間評価なし →	記載必要
			入学センター	1-1①と同じ	
			入学センター	1-1①と同じ	
		②「リエゾン教育プログラム」について、各学科の目的的な探究学習を中心に、各学科の教育目標やAP等を踏まえたプログラムにより構成し、受験前からAP等を理解できる仕組みづくりを検討していく。			
		③2025年実施の新学習指導要領の改訂に対応した入試制度の広報について、高校訪問等を実施し、進路指導室及び高校生に周知する。			
		④入学者選抜方法の妥当性の検証にあたっては、入試種別ごとに成績・課外活動等の在籍生の修学状況を分析するだけでなく、各学科における入学者がAPを満たす人材であったか否かを進路調査等から判定し、その結果を基に次年度の改善に活かす。	高等教育推進センター	「様式1」に事業計画とリンクした目標設定及び中間評価なし	

自己点検・評価（内部質保証）と各種方針・事業計画等の関連



令和6年度事業計画

令和6年(2024)年度
事業計画
学校法人 梅檀学園
令和6年3月

各部門からの意見

令和5年度事業報告書

令和5年(2023)年度
事業報告
学校法人 梅檀学園
令和6年5月

目次

- 1 法人の概要
- 2 事業の概要
- 3 事業計画の進捗・達成状況
- 4 学生募集
- 5 教育
- 6 学生支援
- 7 社会貢献・地域連携
- 8 経理報告
- 9 財務の概要

企画課で素案作成

1. 目標	
目標設定(RO. ○月末) 〈達成手順及び年度スケジュール(目標達成期日や教値を明記)〉	
現状と課題	目標
(1)	
現状と課題	目標

令和6年度
自己点検・評価シート(表面)

各部門で反映

令和5年度 内部質保証 自己点検・評価シート(様式1)

中間評価 (R3.10月末)		最終評価 (RO. ○月末)	
現状	自己評価	現状	今後に向けて
	効果を上げた事項		更なる 発展方策
	課題事項		改善策

令和5年度 評価結果報告書(様式2)
(内部質保証委員会からの助言)

企画課・内部質保証委員会で素案作成

企画課が作成

- 1.総評
全学科・部署共通
- 2.長所・特色
効果を上げた事項、更なる発展方策
- 3.今後の課題
赤字：早急に改善が必要な課題、R6年度目標に反映してもらいたい課題、優先度高
青字：事務局提案等
黒字：自部署より様式1へ記入されている課題等

令和5年度 内部質保証 自己点検・評価報告書

2024年5月
東北福祉大学

企画課で転記

令和5年度
自己点検・評価報告書

令和5年度
自己点検・評価シート(裏面)

各学科、
部署等
で記入

点検の過程、
痕跡を記入

赤字記載の優先度の高い課題

※目標に反映していればここへの記入は必要なし

2. 本学の特色ある取り組み



本学の特色ある取り組み（認証評価結果：長所①）

第2章 内部質保証

大学ビジョン実現に向けた部局横断型内部質保証システム

全学的な内部質保証の推進組織である「内部質保証委員会」のもとに、「内部質保証小委員会」を各学部、研究科及び事務部門に設け、各小委員会においては各部局の点検・評価結果の共有のみならず、事例の照会や改善に向けた助言を相互に行うなど、多角的な視点での自己改善に取り組んでいる。そのうえで、「内部質保証委員会」が大学ビジョンや事業計画等を踏まえた全学的な観点からの評価及びマネジメントを行う内部質保証体制を構築している。このように各小委員会において、改善につながる情報を交換・共有する取り組みが部局相互で活発に行われており、これと「内部質保証委員会」の改善指示によって、多くの特色ある教育の創出につながっていることは評価できる。

《解説》

「内部質保証小委員会」

各部門の自己点検・評価結果は、各学部（4小委員会）、各研究科（2小委員会）、事務部署（全部署合同で1小委員会）ごとに設置された7つの「内部質保証小委員会」で確認・審議の後、大学レベルである内部質保証委員会に諮られます。そのうえで内部質保証委員会では、各部門より提出のあった様式1をもとに長所や改善点の指摘を行い、各部門は、年度後半に次年度の事業計画や目標に設定し実行します。この一連のプロセスをPDCAサイクルの1クールとしています。

本学の特色ある取り組み（認証評価結果：長所②）

第5章 学生の受け入れ

高大連携教育を活用した入学試験制度

「リエゾン教育プログラム」において、高等学校の生徒を対象に大学の理念や学科の専門分野に関する講義等を夏季休暇期間中に開講し、当該プログラムを通じて福祉分野への興味・関心を高め、また、プログラム修了者に対して「学校推薦型選抜〔高大連携〕」の出願資格を与えている。このような特色あるプログラムを通じて志願者が増加しているとともに、福祉分野のみならずそれを応用した産業や保健医療分野を指向する学生の受け入れに繋がっていることは評価できる。

《解説》

本学では、2020年度より高・大のシームレスな教育接続へ向けての取組として独自開発した高大連携プログラムである『リエゾン教育プログラム』を実施しています。このプログラムは、本学で学べる福祉・心理・行政・経営教育・看護・リハビリ・医療事務等の各分野について、大学での研究・教育に触れる機会を希望する高校1年生から3年生の生徒が参加でき、高校と大学相互のつながりや学部学科の理解をより深め、入学後の学修に対する目的意識や将来に対する意識の向上につながる取り組みです。プログラム内容は、本学の建学の精神や教育理念、学科の3ポリシーなどについて説明を聞くだけでなく、模擬講義や与えられた課題についてのレポート提出、ディスカッションや体験実習などもあります。さらに受験生・高校の進路指導部からのアンケートをもとにプログラムの効果測定や妥当性の点検・評価を行うなど、双方協力し、検証しあいながら取り組んでいます。プログラムを終えた受講修了者には修了証を発行し、高校3年生の受講修了者には学校推薦型選抜〔リエゾン〕の出願資格が与えられます。

受験生へのアンケート調査の結果によれば、「基礎学力の強化」、「レポート作成などの方法の習得」、「学習意欲の向上」といった点で効果があったとする回答が多く寄せられています。データ、エビデンスを用いた検証については今後も継続し、高校側、大学側双方のニーズをより満たすように高大連携事業を推し進めていきたいと考えます。

リエゾン教育プログラムから入試まで、教育の一環として機能しており入学志願者の成長や覚醒の場、貴重な教育の場になっており、その成果は高い卒業率や学科の専門性を生かした進路を選択する学生の多さに表れています。

本学の特色ある取り組み（認証評価結果：長所③）

第7章 学生支援

学生のボランティア活動を促進させる学生支援

大学公認団体として活動する多種多様な学生ボランティア団体に対し、生涯学習ボランティア支援課において適切な情報収集及び情報提供やマッチングを行うのみならず、特に優れた自主的な活動を「地域活性化プロジェクト」として認定し、大学の資源を活用した支援を行うなど、積極的な支援と継続した改善・向上により、実際に多数の学生がボランティアの経験を有していることは、大学の理念である「行学一如（学問研究と実践実行は全く一体である）」を体現する学生支援の取り組みとして評価できる。

《解説》

【学生自主活動「地域活性化プロジェクト」】

ボランティア活動と同様に、本学では、建学の精神「行学一如」に基づき、「福祉の心」の社会化として「地域共創」の理念を掲げ、地域共創社会の実現に向けて実践的に取り組んでおります。その一環として、学生が自主的に行う地域活性化に係る活動のうち創造的なプロジェクトについて、学生の地域共創力の発展に資することを目的として支援しています。文字通り、個人又は有志グループが自主的に行うもので学外での活動を対象とし、教職員が様々な助言、支援を行います。所定の要件を満たすボランティア活動を2つ以上、年間30時間以上行い、レポート提出によって福祉ボランティア活動Ⅰの単位が認定され、年間300人程度が認定されています。

3. 大学評価への準備と 評価を終えて



大学評価に向けた準備等

2018年	第3期認証評価基準に合わせた「点検・評価報告書」の書式見直し
2019年	現行の「点検・評価報告書」作成 外部評価委員会による外部評価受審
2020年	内部質保証自己点検・評価シート【様式1】の見直し 第2期認証評価による課題等への改善完了報告
2021年	全部門（学科、研究科、事務部署）に内部質保証担当者を配置 内部質保証小委員会の構成員に内部質保証担当者を追加 全部門の内部質保証関連担当者（所属長含む）に対する点検・評価の実務説明会実施（2回） 教職員対象SD研修（私立大学を取り巻く環境と内部質保証の必要性） 第1章「認証評価制度導入にいたるまでの背景」 認証評価ワーキング・グループ(WG)の設置
2022年	全部門の内部質保証関連担当者（所属長含む）に対する点検・評価の実務説明会実施（2回） 教職員対象SD研修（私立大学を取り巻く環境と内部質保証の必要性） 第2章「認証評価制度と本学の内部質保証結果」 第3章「大学基準協会大学認証評価と本学の内部質保証システム」 第4章「本学の内部質保証システム実施体系と自己点検・評価のあり方」 2022年度点検・評価報告書の作成、根拠資料等の準備（WGを中心に全部門と連携）
2023年	第5章「受審年度の評価スケジュールと評価結果受領後の対応について」 認証評価受審・実地調査（10月）

学内への周知と共通理解のために

■「内部質保証」の意義と必要性の理解

- ・ 自己点検・評価の実務説明会を開催（目標設定時と最終評価時）
- ・ 全教職員を対象としたSD研修の実施（オンデマンド）

テーマ ー私立大学を取り巻く環境と内部質保証の必要性ー

第1章「認証評価制度導入にいたるまでの背景」（約28分）

第2章「認証評価制度と本学の内部質保証結果」（約35分）

第3章「大学基準協会大学認証評価と本学の内部質保証システム」（約37分）

第4章「本学の内部質保証システム実施体系と自己点検・評価のあり方」（約41分）

第5章「受審年度の評価スケジュールと評価結果受領後の対応について」（約19分）

■他部門のこと、他人事、にならないために（当事者意識を持ってもらう）

- ・ 学科、研究科、事務部署の役職者以外から「内部質保証担当者」を選出
- ・ 自部門の自己点検・評価の現状を共有
 - ⇒ 自己点検・評価(目標～最終評価)、事業計画、事業報告、点検評価報告書等の共有
 - ⇒ 教育の質、大学の質の向上を常に意識

学生ファースト・・・大学認証評価や補助金要件のための内部質保証にならないように

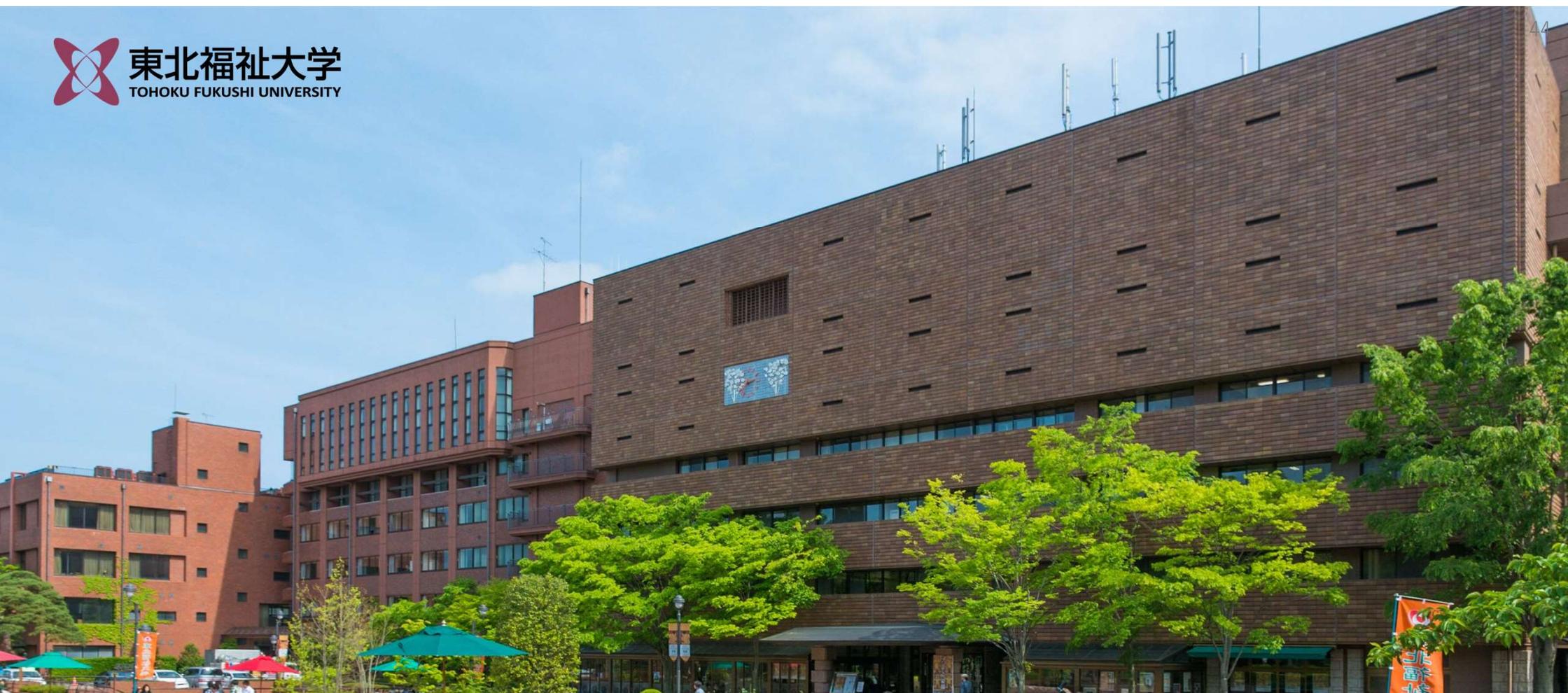
今後に向けて

《現状》

- 自己点検・評価の仕組みとその活動は整備されてきている
- 一方で、教職員によって理解度、取り組みへの意識の差はみられる
- 学修成果の可視化、教育支援の向上が必要

《課題》

- ◎ SD研修のあり方（内容、受講率向上）
- ◎ 外部評価と監事監査の活用方法の検討
- ◎ 学生ファースト、学生視点に立った質保証（学生の意見の取り入れ）
- ◎ 教員個人自己点検・評価制度の実質化



ご清聴ありがとうございました